

JINGUMAE ACCOUNTING FIRM

(有)ベンダース

## 財務分析結果

8/13/2015

公認会計士 植田 哲

神宮前 アカウンティングファーム

**【3.定性分析結果】**

・財務内容には、総資産94,738千円のうち、54,903千円が現預金、売上債権18,630千円であり、固定資産は僅少で、営業保証金12,916千円であり、負債は現預金見合いの借入金(役員本人からの借入金4,457千円、銀行からの長期借入金47,952千円)、営業債務(買掛金6,862千円、未払金7,343千円)もほぼ営業債権と見合っています。

・上記の財務内容から、預金と見合いの借入金、(自動販売機へ収める飲料の仕入先取引時に納める必要がある)営業保証金、若干の在庫飲料を除くと、基本的には売上債権と仕入債務しかない、身軽なシンプルな会社です。

会社社会に利益を多額の確保しようとする誘因はなく、会社の利益は借入金を銀行から出来る程度の安定性を確保すればよく、それよりも役員個人の報酬を多くしたいと思っている会社といえます。おそらく役員2名の個人資産は極めて健全な状態であることが推測されます。

・車両など、固定資産も古いものを大事に使っており、交際費支出も少ない点で、健全経営と思われる。

・今回の保育事業への参入は、補助金ビジネスというリスクの低い分野への参入、ということで経営者の堅実な姿勢(リスク回避的)は伺えます。

・しかし、役員以外の従業員の平均給与が低く、また、賞与や退職金制度もない会社のようなので、今後、従業員の働く環境にどの程度、配慮していくようになっていくが注意すべき点と思われます。

・また、代表取締役(女性、██████████ 出資)と取締役(男性、██████████ 出資)との関係がどのようなものか(会社設立時からの関係)を確認する必要があります。この信頼関係が壊れると、経営が迷走する可能性もあり。

・役員が未経験の分野への参入ということも気になる点です。保育士、保健士としてよい人を採用できる見込みかどうかも、事業を継続していく上で重要になって来るものと思われる。

**【4.関連当事者取引】**

代表取締役(██████████)、取締役(██████████)の両者から会社に対して資金を貸与しています。利息はゼロとしていますが、最低限の利息を取らないと、贈与益認定される可能性があります(尤も少額なので、リスクは高くはないかもしれませんが、...)。

他に会社とどのような取引があるか、念のため確認する必要があります。

**【補足コメント】**

役員2名は文字とおり、二人三脚で会社設立時から地道に事業を行ってきています。地道に、会社に利益を残さない形で、役員報酬で役員個人はある程度、報われている面はありますが、従業員の給与は低いので、これまで以上に「ヒト」を扱う保育事業で、顧客と従業員を大事に健全な経営を営むことができるかどうか、といった経営者の力量、人物評価を重要視する必要があります。

また、今後の利益計画については、売上の積上計算も、運営費、補助金などだけの単純なモデルですが、きちんと根拠ある数値ですし、職員給与も1人当たりの金額を基礎とした単純な計算です。その他の経費は特に具体的な根拠資料はないですが、計上数値に特に違和感はありません。

以上より、財務状況としては、自動販売機業としての過去実績としては特に問題はなく、今後の保育事業としての経営計画について、実質的な運営面を審査することが肝要と考えられます。